

差別とアナキズム

—水平社運動とアナ、ボル抗争史—



宮崎晃 著

黒色戦線社刊

この書で、著者が意図したのは、水平運動史一般ではない。著者が本書で意図したのは、水平社運動におけるアナキズムの追究である。アナ・ボルの抗争史である。

もし、読者が水平運動の通史をもとめられるのであれば、それに関して、多くの類書を書店のたなに見いだすことができるし、ことに、近年は、浩かな資料、文献のたぐいも、ずいぶん出版されている。

しかし、集約的に、水平運動におけるアナキズムに、課題の目標をおいて追究しようとするれば、このような課題をもって追究したものは、遺憾ながら、まったく絶無であると言わねばならない。

往々、研究者はつぎのように考えている。

水平運動においては、アナキズムの流派はなかったか、かりに、そうしたものが存在したとしても、それは評価するに足りないものであった、と。そればかりではなく、ことに最近では、党派的歴史家たちは、故意に、歴史をへしまげ、それを党派的に書きあらためようと作業をすすめている傾向もみられる。あまりに虚構な！。

われわれの信ずるところによれば、アナキズムは消滅するどころか、ますます、ボルセヴィキの最強の敵となつて、たち向かうものであり、レニンは、つとにそれを察知して、かれの著名な『国家と革命』を書いたことは、おおいがたい事実である。かれらは、本来、差別の肯定論理のうえに立っている。

著者は、このような観点から、はじめに述べたように、水平運動におけるアナキズムをテーマとして追究したのである。

もちろん、この作業は、まったく困難なしごとであった。すくなくとも、対象は半世紀以上の過去に埋没するものであり、関係者のひとたちは、ことに戦争という断層によつて

さえぎられ、生きのこっている人びとはわずかであり、資料、文献のたぐいはほとんど失われ分裂している。

しかし、その苦闘を知つて、ふるい友人、知己、先輩、諸氏がさしのべてくれた助力は、じつに感激にたえなかつた。そうした多くの貴重な支援がなかつたならば、本書は、決して完成をみることはなかつたであろう。ほんとうに感謝したい。

教示、書翰、他書からの引用等は、その凡ての出典を示した。

勿論、著者の良心にもかかわらず避けがたい誤謬があると思うが、それらは再版の期に補筆訂正したい。

一九五〇年九月

著者

(なお、本書の表紙は、長野県部落解放同盟から出版された、南佐久高橋市次郎氏の手記「長野県水のたたかい」の表紙、佐久水平社のけい冠旗を借用したものである。また、朝倉重吉氏の写真も同書から引用した。謹んで謝意を表したい。)

第一章 木本凡人とアナ系未解放部落運動の胎動

——水平運動の関西先駆者——……………10

- 一 木本凡人と岡部よし子の足跡……………10
- 二 木本凡人(青十字凡人)と水平運動の開拓……………11
- 三 木本の差別解放運動『青十字社』……………12
- 四 差別運動から社会運動へ……………15
- 五 木本をとりまいた社会状況……………17
- 六 『先駆者同盟』と水口事件……………22
- 七 木本と自由聯合……………24

第二章 平野小劔の行動と限界

——平野小劔アナキスト説の誤謬——……………29

- 一 深川武による水平運動の分類……………29

- 二 平野セクトの成立と衰退……………32
- 三 平野小劔と自伝『水平運動に走るまで』……………33
- 四 小劔を訪れた社会運動への転機……………34
- 五 平野アナキスト説の誤謬……………35
- 六 信友会における普選派の消長……………36
- 七 『自由労働者組合』、『純労会』と小劔……………39
- 八 平野の貢献と喪失……………41
- 九 『檄』(げき)……………44
- 十 佐野学の第四章「解放の原則」……………45
- 十一 『エタ民族の反抗心』……………46
- 十二 『血潮の躍動』……………47
- 十三 『ある日の対話——水平運動に就て』……………48
- 十四 『ある夜のこと』……………49
- 十五 平野小劔と時流……………52

第三章 関東水平社の沿革と分断……………54

- 一 初期水平社創立と世良田事件……………54
- 二 『同和通信』と遠島哲男事件の不透明……………58
- 三 『夜明けの霧』の回想……………61
- 四 雑誌『自由』の発刊と廃刊……………64

第四章 ボル分派組織『青同』の創立と、アナ系『青年聯盟』の対立。日本楽器差別事件の紛糾……………69

一 水平社の分派組織、ボル『青年同盟』の創立……………69
 二 『青同』スローガンの誇大と動揺……………73
 三 山本利平の『西浜水平社解放聯盟』事件……………75
 四 アナ系組織『全水青年聯盟』の結成と、その背景……………78
 五 全水『青年同盟』の無産政党への転換と合同問題の退潮……………79
 六 撤底的糾弾の進化へ……………80
 七 全水『青年聯盟』の結成と機関紙『自由新聞』の短命……………83
 八 『青聯』に対するアナ系の働きかけと京都協議会……………87
 九 静岡県水の創立と情況……………91
 十 日本楽器争議前の本県社会事情……………92
 十一 県水はプロレタリアートを裏切ったか。松田、浅田の謀略……………94
 十二 楽器争議と差別事件の俗説……………97
 十三 労農党の醜体……………102

第五章 広島県水の成立。八太舟三の県水への影響。広島『青年同盟』の投げた波紋。『無産者同盟』の成立。……………104

一 県水弾圧とレーニン派の問題提起……………104
 二 県『青同』の方向転換……………106
 三 広島県水と鉄砲町合同キリスト教会牧師八太舟三……………108
 四 県水におけるアナキスト・グループ……………110
 五 県水アナと労働組合自由聯合の成立……………112
 六 ボル『無産者同』の結成とアナ、ボルの対立……………113

第六章 アナ『全水解放聯盟』の結成と活動……………121

一 全水『解放聯盟』結成の時期と経過……………121
 二 『解放聯盟』の趣意書、宣言、標語……………125
 三 『無産者新聞』の差別事件……………127
 四 『全国水平新聞』創刊と巻頭言……………128
 五 発刊の辞「水平運動の現勢と我等の使命」の情勢分析……………129
 六 創刊号（昭和二年七月二十五日）主要記事……………132
 七 第二号（昭和二年八月二十五日）巻頭言……………135
 八 第二号主要記事……………137
 九 第三号（昭和二年九月二十五日）巻頭言……………139
 十 第三号主要記事……………141
 十一 深川武『改造』十月号論文……………150

第七章 全水大会におけるアナ、ボルの対立……………155

- 一 全水創立期大会とアナ、ボル対立の胎動……………155
- 二 第二期全水大会におけるアナ、ボルの対立……………157
- 三 八全大会から十全大会へ。アナの解散とボルの復活……………168

第八章 長野県水と「農治」県聯の変遷と興亡……………172

- 一 運動の中からの発言(一)朝倉重吉とアナキズム……………173
- 二 運動の中からの発言(二)自主的小作組合……………174
- 三 長野県引継書(県アナキズムの系譜と県水イスム)……………176
- 四 長野県水の基本イデオロギー……………177
- 五 農治県聯と霜害対策のたたかい……………181
- 六 中西、渋谷等の変節と土田イズム(木村)……………182
- 七 県農治電気消費組合運動の不可解な崩壊……………183
- 八 青年層の朝倉離脱と全農参加、県水の分断……………185

(完)